赤川講座の想い出

M⑤　村上育勇

60 年の歳月が流れ、赤川講座の想い出といってもー鉄管の水の目方を量ったことや、こぼれた水銀の粒を拾い集めたことーなど断片ばかり。実験棟内に木材を組み上げたやぐらに登り、意味もなく「原子力研究所」と書いた紙を貼り出したり、構内の空き地で、遠征してきたカナディアンスクールの少年たちを相手にソフトボールをしたり。煤けた雑草に白ズック靴は灰色に汚れ、敷地の奥のお住まいに帰る木下先生のお嬢さんの、夕日に赤く染まった後ろ姿が目に浮かぶ。バラック建ての教室で機械学会の発表会、床がぎゅうぎゅう軋むのも恥ずかしく、すべてが貧しい時代でした。赤川講座の岡村が卒業後数年を経ず春の若草山で逝き、いま先生が亡くなられ、そして残る 2 人も年賀状はやめたと扉を閉ざしてしまい、また寂しくなりました。

（終）

追悼文受付日：平成 28 年（2016 年）02 月 17 日　赤川先生－3